マイコプラズマ肺炎とは

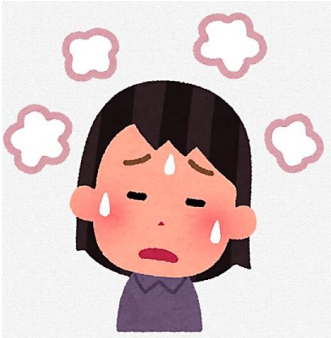
医療法人　小金井中央病院
内科医長　　佐々木　崇洋

【マイコプラズマ肺炎】

マイコプラズマという病原体によって引き起こされる呼吸器感染症です。2024 年度には大流行が見られています。この病気は若年層に多く見られ、約 80%が 14 歳以下の小児です。通年で見られますが、秋冬で特に流行することが特徴です。マイコプラズマはウイルスや細菌とは異なる微生物で、細胞壁がないため一般的な抗生物質であるセフェム系の抗生物質は効果がありません。

【症状】

咳、発熱、喉の痛み、頭痛などがありますが、軽症のことが多いため、「歩く肺炎」とも言われています。咳は乾いた咳が多く、個人差はありますが、高熱になることは少ないです。適切な治療で数週間以内に症状が改善しますが、咳が数週間続くことがあり、QOL（生活の質）の低下の要因となりえます。5～10%未満の方で、中耳炎、胸膜炎、肺膿瘍、気管支炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を併発する症例も報告されていて、特に免疫力が低下している人、高齢者でリスクが高まります。



【診断】

主に問診や聴診によって行われます。必要に応じて、抗原検査、抗体検査、血液検査や胸部 X 線検査、胸部 CT などを実施し、他の呼吸器疾患との鑑別を行います。

【治療】

マクロライド系やテトラサイクリン、ニューキノロンなどの抗生物質が使用されます。鎮咳剤や解熱剤も併用されます。治療は 5 日から 14 日間程度行われ、症状に応じて調整します。重症化の場合、入院治療が必要になります。早期の受診と適切な治療が、重症化防止に重要です。

【予防】

感染者の咳の飛沫を吸い込む（飛沫感染）、感染者と接触する（接触感染）などにより感染します。家庭のほか、学校などの施設内でも感染の伝播がみられます。感染してから発症するまでの潜伏期間は長く、2～3 週間くらいとされています。症状が改善した人も感染力を持っていることがあるのが厄介です。

予防にはうがいや手洗いの徹底、咳やくしゃみをする際には口や鼻を覆うことが推奨されます。集団生活を送る場所では、定期的な換気が効果的です。

栄養バランスの取れた食事や十分な睡眠を心がけ、ストレス管理や適度な運動により、免疫力を高めることも大切です。

小金井中央病院　広報　第９９号　春号　　令和７年３月１日　発行

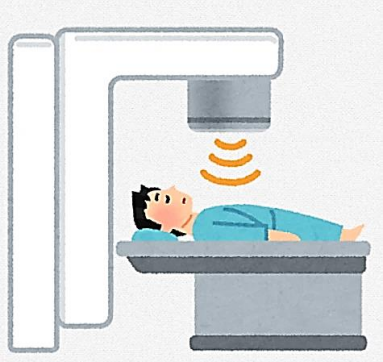
「放射能」と「放射線」のちがいとは？

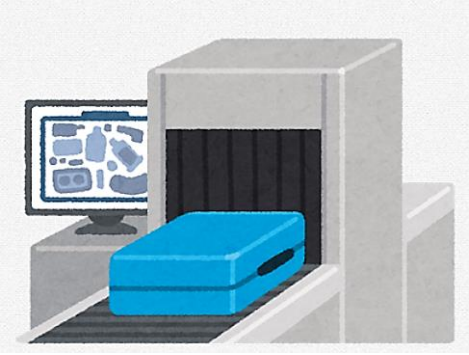
医療法人　小金井中央病院
診療放射線副技師長　　加藤　美幸

2011 年、東日本大震災に伴い東京電力福島第一原子力発電所の事故が起きました。その後、「放射線」や「放射能」という言葉を耳にする機会が増えましたが、みなさんは「放射能」と「放射線」の違いをご存知でしょうか？

「放射能」とは放射線を出す能力のことで、放射能を有する物質を「放射性物質」といいます。放射性物質というと原子力発電所の事故で話題になった「セシウム・ヨウ素・ストロンチウム」などを思い浮かべる方が多いと思いますが、私たちの身の回りには、土や食物、水、大気の中に「カリウム・炭素・ラドン」のような人体に影響のない程度の微量な放射性物質が存在しています。
「放射能」の単位は Bq（ベクレル）で表され、数値が大きいほど放射線を出す力が大きいということになります。

「放射線」とは光や電波の仲間で、自然に発生するものと人工的に発生させるものがあります。放射性物質から出る放射線は自然のものですが、病院でのエックス線検査やＣＴ検査で使用する放射線は人工的に作り出したものです。





自然放射線は宇宙、大気、大地、食物などから発生します。人工放射線は、放射線発生装置や加速器という装置で放射線を発生させ、医療分野だけでなく工業分野や農業分野、また空港の手荷物検査などにも使用されています。

ラドンなど

カリウムなど

「放射線」の量を表す単位はＧｙ（グレイ）とＳｖ（シーベルト）です。
Ｇｙは物質が放射線から吸収したエネルギーの単位で吸収線量といわれます。Ｓｖは放射線が人体に与える影響の度合いを示す単位で、被ばく線量を表すときに使います。

「放射能」・「放射線」・「放射性物質」の関係を「電球」と「光」の関係であらわすと、下の図のようになります。

電　　球

放 射 性 物 質

放射線検査についての質問や心配事などがありましたら、私たち診療放射線技師にご相談ください。